

電子メールサポートを利用した e-learning の活用
2012 年度「TOEIC 短期攻略講座」の成果から
“Interactive” E-learning with E-mail Communication in an Intensive TOEIC Course

○内堀奈保子¹, 谷岡朗¹, 鈴木孝¹, 多恵基継¹, ジョセフ・ファラウト¹, ルート・ヴァンバーレン¹,
 中村文紀¹, ジョナサン・ハリソン¹, 乙黒麻記子¹

*Naoko Uchibori¹, Akira Tanioka¹, Takashi Suzuki¹, Mototsugu Tae¹, Joseph Falout¹, Ruth Vanbaelen¹,
 Fuminori Nakamura¹, Jonathan Harrison¹, Makiko Otaguro¹

Abstract: The e-learning research group has held intensive TOEIC courses during the vacation periods every year since 2004 to improve students' English abilities in blended e-learning environments. In the 2013 spring course, consultation and information sharing via e-mail were introduced to supplement face-to-face interaction and individual e-learning components. This study describes how e-mail communication enhances the effectiveness of learning.

1. はじめに

本稿では、2012 年度春に一般教育教室 e-learning 研究グループにより実施された「TOEIC 短期攻略講座」の成果報告と検証を行う。本講座は、e-learning の効果的な利用方法の研究と学生の英語力向上を目的として、2004 年度より毎年長期休暇中に開催されてきた。すでに e-learning 教材の活用が学生の基礎学力養成に一定の効果を与えうることが検証されてきたが^[1]、セルフコントロールに結果が左右される自主学習期間をいかに有効に過ごさせるかについては課題とされてきた。ここでは e-learning 教材と対面授業に加え、のべ 30 往復に及んだ講師と受講者間の電子メールでのやり取りが、スコアの変化にどのような影響を与えているか考察したい。

2. 方法

講座は Table 1 にあるように、前半 2 日、中盤 1 日、後半 2 日の計 5 日、途中にインターバルを挟みながらの 1 ヶ月間で実施された。講座の構成は、対面授業、ALC NetAcademy2 と Moodle を取り入れた自主学習、開始前と終了後の TOEIC IP 受験という三本立てとした。対象とする学生は、本学の TOEIC 平均スコアを考慮して 300 点台の学生とし、400 点突破を目標ラインに設定した。受講者は 25 名定員で、学内掲示で募集をかけた。最終的に 2 回実施した TOEIC IP を受験したのは 21 名で、その内訳は学部生 18 名と短大生 3 名だった。

今回の講座は、効果的な自主学習を促進させることに重点を置いた。特徴の一つとして、演習と解説に特化した前回とは異なり、演習と同程度の時間を、各パートごとの学習法や解答のコツの習得に割いた。というのも、TOEIC の特徴をよく把握し、問題形式にあった学習方法を知ることで、自主学習の効果が違ってくるからである。

また、もう一つの特徴として、電子メールを利用したコミュニケーションを積極的に取り入れたことがあげられる。本講座は通常授業と異なり、講義が毎週コンスタントに開かれるわけでも、単位認定や成績評価に結び付くわけでもない自主参加型の講座である。そのため、学習成果は受講者の 1 ヶ月に及ぶ自主学習期間の過ごし方が鍵となる。本講座では、教員から数日おきに受講者に向けて電子メールを発信する中で、受講者からの問い合わせを促し、気軽に教員とコンタクトをとれるような学習環境作りを行った。結果として、のべ 30 往復に及ぶ電子メールのやり取りがあった。また、教員は個々の受講者への応答だけでなく、質問内容への回答や NetAcademy2 の進捗状況などを電子メールを通して全員と共有し、受講者間の繋がりを育む試みを意識的に行った。

Table 1: TOEIC Intensive Course Schedule

日程	時間	内容
2月7日	10:00-12:30	TOEIC 受験
	13:30-14:30	ガイダンスとプラン作成
2月8日	10:00-12:00	Reading 学習法と演習
	13:00-14:30	Listening 学習法
E-learning 等を利用した自主学習期間		
2月18日	10:00-12:00	Reading 演習 (Part 5&6)
	13:00-14:00	Reading 演習 (Part 7)
	14:00-14:30	Listening 学習法確認
	14:30-15:30	個別質問対応
E-learning 等を利用した自主学習期間		
3月6日	10:00-12:00	Reading 直前対策
	13:00-14:00	Listening 直前対策
3月7日	10:00-12:30	TOEIC 受験

1 : 日大理工・教員・一般

3. 結果と考察

本講座を検証するにあたり、電子メールによるアプローチがあった受講者（A 群）（8 名）と無かった受講者（B 群）（13 名）とに分類し、開始前のスコアと終了後のスコアの増減平均を算出した（Figure 1）。A 群、B 群ともにスコアは上昇したが、特に A 群の上昇は顕著であり、B 群をさらに 25 点も上回る結果となった。部門ごとに比較すると、Reading については大きな差はないようにみられるが、Listening では Total の結果よりも一層顕著に A 群のスコアアップがみられた。

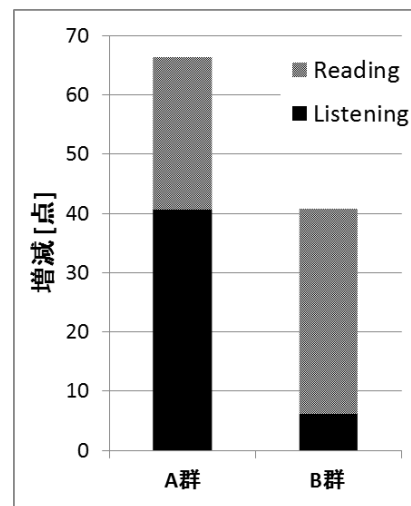


Figure 1: A 群と B 群の増減平均

さらに、平均では埋もれてしまう個々のデータにも検討を加えるため、A 群と B 群の受講者全ての開始前のスコアと増減点数との相関をとってみた（Figure 2）。すると、A 群 B 群ともに、200 点近くスコアアップした者からほぼ変動がなかった学生まで含んでいるものの、A 群は 50 点から 100 点に集中しているのに対し、B 群は大きなばらつきが見られた。

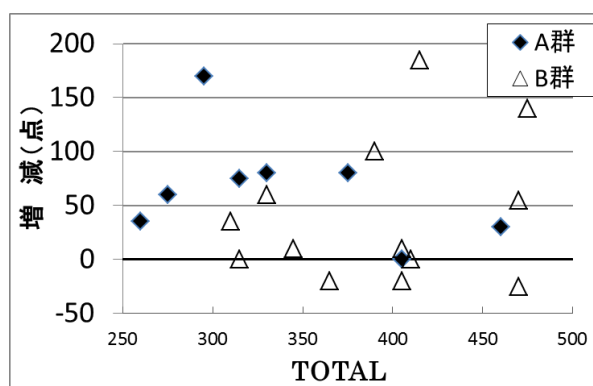


Figure 2: 開始前 TOTAL スコアと増減結果の分布

次に、Figure 2 からは、もう一つの傾向を見てとることができる。それは、B 群に比べて、A 群はグラフの左側すなわち開始前にスコアが低い学生が多いということである。これを、各群の平均点をみながらあらためて確認してみたい（Table 2）。開始前の A 群と B 群の平均点には約 50 点もの開きがあることが分かる。これは、電子メールを使用した受講者の多くが、使用しなかった受講者よりも低学力層の学生であったことを示すものである。したがって、A 群は基礎学力は乏しいが、学習意欲は高く、電子メール等を使用した細やかなサポートが彼らの学習を後押ししたと推察できる。一方 B 群は、開始前の時点で平均点が 392.7 点と、本講座が目標としていた 400 点にすでに届くレベルにあったが、増減結果のばらつきにみられるように、効果的な学習を継続する意欲や力量に個人差があったと考えられる。

Table 2: 開始前と終了後の TOTAL 平均

	開始前	終了後
A 群	339.4	405.6
B 群	392.7	433.5

以上の結果から、電子メールを使用した双方向型サポートは、e-learning 教材と対面授業の効果を引き出す手段として、一定の貢献を果たし得るといえる。

4. 結論

本講座では、学習者間および講師と学習者間のネットワークの強化を図り、個人学習でありながら周囲との連帯を感じさせるような学習環境作りを目指した。電子メール等を利用したきめ細かいサポートがあれば、基礎学力が乏しい受講者でも、学習意欲を高く保ち、スコアアップを達成することが可能であることが分かった。受講生へのアンケート調査でも「とても役立った」「役立った」との回答が 84%にものぼることから、学習インセンティブという観点からも有効であったといえる。とくに、e-learning を有効活用するためには、学習者をいかにして自主的・主体的に取り組ませるかが議論となる所であり、今回の双方向型学習環境の導入はその課題に風穴を開ける教育手法だと考えられる。今後はより多くの被験者を対象にその有効性を検証したい。

5. 参考文献

- [1] 谷岡朗, 中川浩, 周一川, 郭海燕, 鈴木孝, 多恵基継, ジョセフ・ファラウト, 中村文紀, ルート・ヴァンバーレン, ジョナサン・ハリソン, 福田敦, 石坂哲宏:「TOEIC Bridge との関連から見た英語 e-learning 学習の活用について」, 第 53 回日本大学理工学部学術講演会 (CD-ROM), 63-64, 2009.
- [2] 中村文紀, 谷岡朗, 鈴木孝, 多恵基継, 乙黒麻紀子, 山口健:「e-learning を利用した英語学習サポートシステムの効果測定」, 第 55 回日本大学理工学部学術講演会 (CD-ROM), 71-72, 2011.